

第 30 回市民まちづくり講座 in 明石

次期総合計画(SDGs推進計画)の問題点は、どこにあるのか？

今回の市民まちづくり講座は12月19日(日)に、明石市が来年3月策定へ向けて作業を進めている「次期長期総合計画」(SDG s 推進計画と市は名付けている)の進め方と発表された素案の「どこに問題があるのか」について、市民目線から議論します。

向こう10年間の明石市のまちづくりの方向性と重要課題を「長期計画」としてまとめる長期総合計画は、自治基本条例にも「市民参画による策定」が義務づけられていますが、今回の策定作業は新型コロナウイルス感染症の拡大の中で作業がべた遅れに遅れ、策定時期を1年延ばして現在急ピッチで取りまとめ中です。10月17日には3回目の審議会が開かれ事務局でまとめた「素案」が提示され、これをもとに12月17日から25日まで初の「市民説明会」が開催され、同時にパブリックコメントの募集も行われる予定です。

10年の長期計画にふさわしい策定プロセスが行われたのか？ 審議会での十分な議論もないままにまとめられた「素案」に問題はないのか？ 講座では、こうした問題点を市民目線から検証します。

第 30 回 市民まちづくり連続講座 in 明石

日 時 2021年12月19日(日) 午後1時30分～4時30分

会 場 ウィズあかし8階 市民活動支援センター・ブース (アスパア明石8階)

テーマ **次期長期総合計画 (SDG s 推進計画) の問題点は、どこにあるのか？**

問題提起 岡本弘志さん(明石市元部長)ほか

※事前申し込みは不要。どなたでも参加できます。当日会場にお越しください。

市民参画と審議不十分なまま突っ走る コロナ遅れの再延長も撤回し、年度内策定を優先

10年ごとに策定している「長期総合計画」は、2020年度までの第5次計画が切れるために2020年2月に第6次計画を策定する審議会を発足させました。

本来なら、2020年3月には2021年度～2030年度を目途とする第6次計画を策定しておかねばならないはずで、審議会のスタート自体が少なくとも2年以上遅れています。市民自治あかしは2019年6月市議会に「自治基本条例が施行されてから初めての総合計画の策定であることから、より丁寧な市民参画の手順を踏む」ことを求めた請願書を提出してきました。当時の市の計画なら、2020年の1年だけでまとめる“荒っ

ぱい”策定作業になりかねないことを懸念したからです。

私たちの懸念は的中し、第1回審議会は発足したものの同年3月に予定された第2回は新型コロナウイルス感染症の拡大で延期を重ね1年以上経った今年5月にやっと開催される有様です。この間に市は2020年12月に

「骨子案」を発表し市民の意見募集するのと並行して計画の「素案」をまとめて今年3月の市議会特別委に報告、審議会の俎上に上がったのは今年5月の審議会でした。その後10月17日に開いた第3回審議会で

「素案」を了承し12月に市民説明会を開くとともにパブコメに付し、来年2月に第4回審議会を開き答申、3月議会で策定を求める予定です。

回	日 時	テーマと内容	会 場
31	1月22日(土)	2022年1月22日 テーマは検討中 12月に発表予定	ウイズあかし8階 ースAB

県立図書館の明石港への移転要求?なぜ? 県は市長に拒否回答

明石公園にある兵庫県立図書館を明石港の砂利揚げ場跡地一帯の再整備地区へ移転するよう、泉明石市長が県に提案しているという。県は約14億円をかけて耐震補強などの大規模改修工事をしたばかりでもあり「移転は考えていない」と市に伝えたという。(神戸新聞11月17日付け記事参照)

県と明石市の間では何かとギクシャクした話が少なくないが、この一件には何かと気になる問題が付きまとう。まちづくりと市政の情報を市民と行政が共有し、市民参画の下で姿勢を進める「市民自治のまちづくり」(自治基本条例)を掲げるには、唐突にすぎないか?

突然の移転提案いつ、どこで

県立図書館の移転要求は、今年7月の県知事選に際して泉市長が候補者に出した異例の公開質問状で、初めて明るみに出た。県立図書館の移転を含む文化複合施設を東外港の再開発地区に整備することの協議を求めたものだ。

同市長は2011年の市長就任直後に、当時は明石公園の県立図書館の隣接地にあった市立図書館を明石駅前に計画中だった再開発ビルへの移転を断行。その後県から図書館と旧中央公民館を解体して23年3月末までに土地を県に返還するよう求められていた。当初は予定していなかった数億円にのぼる解体撤去費への対応に苦慮してきた。

市立図書館の駅前移転も市長の“鶴の一声”で唐突に決まったが、今度は所管は異なるものの県立図書館の移転を市長が突然言い出した。文化施設などの配置や移転計画はまちづくりの重要な公共施設だが、いつ、どこで、市民や専門家らの意見を踏まえて決定させたのかが不透明なことが相次いでいる。

図書館の立地条件

海辺で塩害や津波浸水は大丈夫?

明石公園の県立図書館は緑豊かな国指定の重要文化財の明石城跡を活用した明石公園内に、明石市立図書館と合わせて建築され1974年10月に同時開館した。当初は一般市民貸し出しに対応する市立図書館と機能分担し、当初は貸し出しはしていなかった。

その後も県立図書館としては蔵書数や貸し出し冊数、資料予算額などで全国最下位ランクにあるが、移転よりの旧市立図書館も取り込んで拡充を図る方が賢明ではないか? 津波浸水や海辺で塩害をもろに受ける港への移転要求は見当外れではないか? 明石市の中で議会や市民も含めて、いつ、だれが、どこで、このようなまちづくり方針

県立図書館移転を提案

泉市長 明石港東外港地区へ

2021.11.17 神戸

県 耐震工事済みで「考えていない」



泉市長が明石港東外港地区への移転を県に提案した県立図書館(旧市立図書館の建物)が隣接する「明石市明石公園」

「本のまち」として図書館の充実に取り組んできた明石市に県立図書館が立地するのはいらない、現状のまま設置を同地区へ移すという列席中の泉市長は要請した。県は同関係者によると、県は同20日付の文書を通じ、提案に同意しない旨を返答した。2016、17年度に耐震補強工事を終えているとして「県立図書館の移転は考えていない」と市に伝えたという。

泉市長は「解体のみを単独で行う場合は市の費用負担がかさむ」と強調。建物や跡地の今後の利用計画とセットで進めよう県に理解を求める意向を伝えている。

泉市長は「解体のみを単独で行う場合は市の費用負担がかさむ」と強調。建物や跡地の今後の利用計画とセットで進めよう県に理解を求める意向を伝えている。

兵庫県立図書館 明石公園で1974年10月に開館。市町立の図書館として難しい郷土資料の収集保存を担い、2017年1月に閉館した。建物を利用して同年8月から20年3月まで、郷土関連の図書や資料を「あかし711冊(21年3月時点)」は、都道府県立図書館の中で47位。20年度の貸し出し冊数は個人向け(3万6628冊)が45位(団体向け30万55冊)が28位、図書館向け1万379冊が28位、21年度の資料予算額2040万円の45位と下位である。

旧明石市立図書館 1974年10月、県立図書館と同時に隣接地で開館。明石駅前にある再開発ビルへの移転に伴い、2017年1月に閉館した。建物を利用して同年8月から20年3月まで、郷土関連の図書や資料を「あかし711冊(21年3月時点)」は、都道府県立図書館の中で47位。20年度の貸し出し冊数は個人向け(3万6628冊)が45位(団体向け30万55冊)が28位、図書館向け1万379冊が28位、21年度の資料予算額2040万円の45位と下位である。

を決めたのか。

石垣優先で樹木伐採、生態系に脅威

明石公園 専門家や環境市民が県に要望書



明石公園で石垣周辺など広範囲で樹木の伐採が進められている。貴重種も含めて“生態系の宝庫”とも言われているのに「必要以上に伐採され貴重な生態系が脅かされている」と11月18日、植物研究者らでつくる市民団体「明石公園の自然を次世代につなぐ会」(小林禧樹代表)が県知事に計画の見直しと、環境学習や憩いの場として自然環境の保全を求める要望書を提出した。